

アルコール検知器を活用して 飲酒運転を防止しましょう！

先般、千葉県八街市において、多数の小学生が死傷する痛ましい交通事故が発生しましたが、この事故は、飲酒の影響により発生に至った可能性が指摘されています。

交通事故は、直接の被害者のほかにも、被害者や被疑者を取り巻く多くの方々に不幸をもたらします。

特に飲酒運転による業務中の事故は、社会的に大きな注目を浴び、事業所の管理責任も厳しく問われることとなります。

安全運転管理者の業務として、「**飲酒などの理由により正常な運転をすることができないおそれの有無を確認し、必要な指示を与える**」旨が定められていますので、これを確実にいき、飲酒運転を防止しましょう。

アルコール検知器の活用

○ アルコール検知器を活用しましょう！

顔色や匂いだけでは飲酒状態を見落とす可能性があります。アルコール検知器を使用して確認の精度を上げましょう。

○ 乗車前後に確認しましょう！

乗車前の確認はもちろんですが、乗車後にも確認する習慣をつけることで、業務中の飲酒の防止に効果があります。

○ 確認結果を記録しましょう！

確認に漏れがないよう、日々、それぞれの運転者の確認結果を記録しましょう。

飲酒が運転に与える影響

- 速度感覚が麻痺してスピードを出し過ぎる
- 気が大きくなって危険を危険と感じなくなり、無謀な運転をする
- 視力が低下し、確認の範囲が狭まり、信号を見落としたり計器類を見誤ったりする
- 反応時間が遅れる、的確なハンドル・ブレーキ操作ができなくなる
- 意識がぼんやりする、眠気が生じるなどの状態に陥る